

33 塚田秀鏡《巖上鶴鴿置物》

大正六年（一九一七）

貴石、彫金

五二・〇×七三・〇×四四・六

大正四年の大札に際して、三井家より献上された置物。製作は東京美術学校に依頼され、同校教授の島田佳矣が図案を担当し、彫金は大正二年に帝室技芸員に任命された塚田秀鏡（一八四八～一九一八）による。金属材料は三井家より提供され、二カ年をかけて製作された。なお、三井文庫の資料によれば、大正天皇にはハクセキレイ、貞明皇后にはキセキレイの置物がそれぞれ献上されている。ハクセキレイの置物については所在が不明であり、本作はキセキレイに当たる。貞明皇后の御遺品として秩父宮家に引き継がれた品である。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan